

ICEP 気候変動フォーラム 2023

— 気候変動を正しく学ぶ —

開催案内

2023年6月14日

一般財団法人石油開発情報センター

世界では、Covid-19 との闘いに終わりが見えてきつつあるものの、気候変動に起因した脱炭素への流れは加速化し、世界中の国家、社会、企業が 2050 年のネットゼロに向かって熱心度、本気度の濃淡はあれ、その取り組みを本格化しつつある最中、石油天然ガス開発業界は、これまでのビジネスモデルに大きな変革を求められています。言い換えれば、石油天然ガス開発業界は、今後、エネルギートランジションの流れの中で石油天然ガスの供給をある程度維持しつつ、CO2 排出の削減と合わせ石油天然ガスの生産量を削減していくことが求められています。

このような厳しい事業環境にあって、石油天然ガス開発業界で働く多くの方々が、戸惑いながらも、これまで培ってきた技術、ノウハウを活用しつつ、ネットゼロに向けて様々な取り組みに励んでいらっしゃる。とはいえ、「気候変動」という地球規模の事象については、業務上必要な知識として多くの皆様が既に学ばれ身につけられていらっしゃるものと推測しますが、こうした流動的で変化の速い環境にあって、今後、様々な新しい技術やビジネスモデルに取り組んでいくに際し、その根底にある「気候変動」そのものについて、改めて関係する事項を客観的に整理し、正しい理解を定着させることが重要ではないかと考えています。

「気候変動」、「ネットゼロ」そして「エネルギートランジション」等に関しては、非常に多くの分野が相互に関係し合っており、その情報量もまたありとあらゆる分野で膨大なものになりますが、今回、その基本中の基本である地球温暖化の科学的メカニズム、また、これに則った将来の気候変動による地球環境への影響等について、現在わかっていること、また、将来にわたって評価できたことを客観的に整理し直し、ご紹介するフォーラムを開催することとしました。

今回のフォーラムでは、下記のとおり、3人の専門家・有識者を招聘し、それぞれがお持ちの専門知識、情報及び経験等をもとに、それぞれのご担当テーマについて、はっきりしていること、まだまだ流動性が大きい要素等について、客観的な解説をしていただき、皆様の気候変動に対する理解醸成の一助になればと思っています。

締め切りまでの時間があまりありませんが、多数の皆様にご参加いただきたく、ご参加ご希望の方は事前登録をお願いします。

記

- タイトル： ICEP 気候変動フォーラム 2023 — 気候変動を正しく学ぶ —
- 日時： 2023 年 06 月 28 日（水） 14:00～17:45（フォーラム）、17:45～19:30（交流会）
- 会場： エッサム神田 2 号館 3 階大会議室
https://www.essam.co.jp/hall/pdf/essam_access_2.pdf#zoom=70&page=mode=thumbs&toolbar=0
- 開催方法： 〒101-0047 東京都千代田区内神田 3-24-5、TEL:03-3254-8787
本イベントは、世界的な COVID-19 感染拡大が一段落し、我が国政府の感染拡大防止ガイドラインも緩和されたことから講演者と参加者による直接的な交流等を目的としてオンサイトで開催します。
なお、止むを得ない事情でオンサイト参加がどうしても難しい方々には、オンラインでの参加を検討しますので、参加申し込みの際にその旨お申し出ください。
- 参加費： 無料
- 言語： 日本語
- お申込み： 以下の Google Form を活用いただき、オンラインで参加登録願います。
https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfSfXVDRiSMA97R9t9QsNnV3IY_3PThuqYIVgWYcYzDCnst9w/viewform
参加登録された申し込みの皆様には、2023 年 06 月 27 日（火）に最終参加のご案内を配信します。
- お申し込み期限： 2023 年 06 月 26 日（月） 18：00 です。
- お問い合わせ先： 一般財団法人石油開発情報センター研究部まで
e-mail：event@icep.or.jp
電話：03-4520-8661

「ICEP 気候変動フォーラム 2023」プログラム

時間	プログラム（講演内容）
13:30	来場受付
14:00	<p>フォーラム進行・全体説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 高木 路子（副主任研究員、一般財団法人石油開発情報センター（ICEP）） <p>開会のご挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> 鈴木 孔（理事長、ICEP）
14:15	<p>セッション 1：地球の気候変動のメカニズムを知る</p> <ul style="list-style-type: none"> 中山 一夫（ジオリサーチ・ナカヤマ代表） 産業革命以降、地球の温暖化が進行していることは事実であり、地球の持つ長い歴史、地史学の観点から地球の過去の気候を概観し、気候変動のメカニズムを読み解くことにより、現在急速に進行している地球温暖化の現象理解を深める一助としたいと考えています。 また、現在進行中の地球の気候変動に関しては、人為的原因によるものとする考えと、少数ながら自然変動とする考えがあります。これらは気候変動の予測手法やその結果にも繋がるものであり、両者の考えを対比することにより、気候変動予測の正しい理解への足掛かりにしたいと考えています。
15:00	<p>セッション 2：白亜紀以降の気候と生物の応答—植物化石から見た気候変遷史</p> <ul style="list-style-type: none"> 矢部 淳（国立科学博物館・地学研究部研究主幹） 地球の気候変動について、講演者の専門である植物化石と過去の地球の気候についてその因果関係を解説するとともに、これまで地球が経験してきた温暖化、寒冷化について地質現象等との関連性を説明し、地球の気候が長い地球の営みの中で形成され、繰り返されてきたこと、また、今後の予測に関して、そのタイムスケール等による様々な特性の違いを理解して取り組んでいくことの重要さと難しさを理解いただきたいと思います。
15:45	ブレイク

16:00	<p>セッション3：地球温暖化モデル将来予測の不確実性~IPCC 報告書再読~</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 阿久津 亨（株式会社 INPEX ソリューションズ調査事業部研究主幹） ・ 気候変動に関する政府間パネル（IPCC）は、気候変動の原因、今後の見通しなどを取りまとめた報告書を2021年8月に公表しています。 ・ 同報告書では、気候変動の原因推定や将来予測等が記載されており、気候変動問題を議論する際、常にその結果が引用されてきています。 ・ 他方で、地球規模の問題を分析、予測していく作業にあって、こうした科学的アプローチの中でも様々な仮定、補正、調整が行われ、その結果に対して不確実性や恣意的要素が散見されています。 ・ 本セッションでは、IPCC レポートの内容を正しく理解するため、その評価手法について説明し、これらを使用していくうえで、留意すべき点、その影響度合いなどを客観的に解説していきます。
16:45	<p>ラウンドテーブル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本日のフォーラムのまとめとして、今後、気候変動問題を考えるうえでの課題、留意点等を各講演者と参加される皆様との会話等から改めて整理し、気候変動問題におけるその不確実性等への理解を醸成するとともに、今後、我々は何に注目し、どのようにとらえていくべきなのか、といった点を整理、共有していければと考えています。
17:30	<p>閉会のご挨拶/閉会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相岡 雅俊、会長、一般財団法人石油開発情報センター（ICEP）
17:45- 19:30	<p>交流会（6階、中会議室1）</p>

Speakers ・ 講演者紹介

鈴木 孔（一般財団法人石油開発情報センター（ICEP）、理事長）



1975年に東北大学工学部を卒業。

1976年、石油公団（JNOC、2004年に独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構に組織改編し2022年に独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構（JOGMEC）に組織改編）入団。世界各地の石油・天然ガスの探鉱・開発プロジェクトを支援し、その後、日本における石油・LPG（液化石油ガス）の国家備蓄基地の建設を担当し、日本のエネルギー資源の安定供給に貢献。

2009年にJOGMECの理事（石油開発技術本部長）に就任し、2012年に退任。

2012年、一般財団法人石油開発情報センター（ICEP）の理事長に就任し、その運営に直接携わり、賛助会員企業他に対する世界の探鉱・開発事業に関連した情報の提供、石油・天然ガス産出国からVIPや経験豊富な専門家を招いたセミナー、フォーラム及びワークショップの開催並びに地質地科学的な調査の受託実施など、10年以上にわたりICEPの活動を主導。

中山 一夫（ジオリサーチ・ナカヤマ代表）



1973年、東北大学理学部地学第一学科卒業、同年石油資源開発(株)入社。

以後45年間、探鉱関連部署にて勤務、専門は石油地質。

途中2度にわたる米国留学にて地質学修士（Houston大学）、地質学博士（South Carolina大学）取得。

修士以後、石油の生成移動モデル（Basin Modeling）の開発と応用、その後シール能力の定量化モデルに従事。途中、地球科学総合研究所へ出向しコンサルタント業務も行い、本社に復帰後、中東・アフリカ・欧州事業本部長としてイラクの石油開発、北海の探鉱案件発掘にかかわる。

2017年に退職後、ICEP技術顧問、深田地質研究所客員研究員。

近年、気候変動への関心の高まりから気候変動メカニズム等に関してその知見を活用した調査、研究を実施。現在は、ジオリサーチ・ナカヤマ代表。

矢部 淳 (国立科学博物館・地学研究部研究主幹)



1993年、筑波大学第一学群自然科学類卒業。
1997年、筑波大学大学院地球科学研究科中退。
2011年、千葉大学理学研究科にて論文博士（理学）取得。
1997年より福井県立博物館研究員として県立恐竜博物館の建設準備に携わる。
2000年より福井県立恐竜博物館研究員。
2014年に国立科学博物館に転職し、同年より地学研究部生命進化史研究グループ研究員。
2016年に同研究主幹。専門は古植物学。白亜紀以降の東アジアの植生史解明に取り組んでいる。
著書に「日本の気候変動 5000 万年史」（共著、講談社ブルーバックス、2022 年）、「解説：山火事と地球の進化」（河出書房新社、2022 年）、「古生物学の百科事典」（分担監修・分担執筆、丸善出版株式会社、2022 年）などがある。

阿久津 亨 (株式会社 INPEX ソリューションズ調査事業部研究主幹)



早稲田大学理工学部数学科（中退）を経て、1984年東京大学理学部地学科（地質学）卒業。
同年石油公団入団、2004年国際石油開発株式会社（現株式会社 INPEX）に移籍。
この間海外、国内の探鉱・開発業務に従事（英国に2年、米国に4.5年、インドネシアに3.5年、新潟に4年赴任）。専門は地質。
石油技術協会をはじめシンガポール、インドネシアで開催された石油探鉱開発関連学会でも講演。
2019年より INPEX ソリューションズに在籍し、気候変動のメカニズムや再生可能エネルギー関連の調査業務に従事。現在は同社調査事業部研究主幹。

梶岡 雅俊（一般財団法人石油開発情報センター（ICEP）会長）



1968年に東京大学工学部卒業。

1968年、日本の石油・天然ガス開発事業における先駆者的企業である帝国石油株式会社に入社。

入社後は、国内の油田及び天然ガス田における生産・操業現場での実務、最先端技術の研究開発及び海外での探鉱・開発プロジェクトなどを担当し、2005年に帝国石油株式会社の社長に就任。

その後、日本の石油・天然ガス開発業界の再編・強化の過程において、国際石油開発帝石ホールディングス株式会社を設立し、代表取締役役に就任。

2008年、国際石油開発帝石ホールディングス株式会社と帝国石油株式会社が合併し、国際石油開発帝石株式会社が誕生。同社の代表取締役役に就任。

2015年以降、国際石油開発帝石株式会社（2021年に株式会社INPEXへ社名変更）の相談役を務め、民間企業における長期にわたるビジネス経験をもとに2013年に一般財団法人石油開発情報センター（ICEP）の会長に就任。

以上